Mineral Resources Group
金属資源グループ

常務執行役員
金属資源グループCEO
小山聡史

事業概要

- 原料炭、鉄鉱石、銅、アルミ、ニッケルなどの資源投資や鉱山開発
- 石炭、鉄鉱石、ニッケル、クロム、モリブデン、銅・鉛・亜鉛精鉱および地金、錫地金、アルミ地金・二次合金、アルミ製品、ボーキサイト、貴金属、レアアースなどのトレーディング

当グループの強み

- 世界最高水準のコスト競争力と品質を兼ね備えた優良資産を保有
- 長年構築してきた業界プレゼンスを活かした、大手資源会社をはじめとする主要プレーヤーとの強固なパートナーシップ
- トレーディング事業で培ったグローバルな顧客基盤を通じて得られる業界インテリジェンスとプレーヤーとしてのプレゼンス、並びに、これらを梃子にした新規優良投資案件の発掘
- 外部環境の変化に応じて事業モデルを変革し、成長につなげられる適応力

マテリアリティと事業の関連性

該当マテリアリティ	マテリアリティとの関連性／アクションプラン
脱炭素社会への貢献	**高品位原料の安定供給および低炭素鉄源の供給力拡大を通じた製鉄の低・脱炭素化への貢献** • 高品位の原料炭や鉄鉱石の安定供給 • 直接還元鉄事業への参画
自然資本の保全と有効活用	**銅・アルミの供給力拡大および電池原料の開発を通じた電化推進への貢献** • 持分銅生産量の維持・拡大 • ボーキサイト案件の開発推進 • リチウム・ニッケル資源案件への参画
持続可能で安定的な社会と暮らしの実現	**二次資源の供給力拡大を通じた循環型社会実現への貢献** • 貴金属リサイクル事業への参画検討 • リチウムイオン電池リサイクル事業への参画検討 • アルミ二次資源事業への参画
イノベーションを通じた社会課題の解決	

環境認識

リスク	機会
• CO_2排出量の少ない製鉄法の普及に伴う原料炭の需要減	• EV化の進展や再生可能エネルギー発電設備の普及に伴う銅や電池原料の需要増

中期経営戦略2024における戦略

- 鉄鋼業の低・脱炭素に貢献すべく、高品位の原料炭や鉄鉱石の安定供給を果たしつつ、電炉拡大に資する直接還元鉄や、水素社会に不可欠な貴金属などの可能性を追求
- 電化を支える素材として、銅既存資産の生産量維持・拡張を軸に、新規優良資産の取得、銅回収の新技術活用等を通じた銅事業の成長を目指す
- 電池原料のリチウム・ニッケル、アルミ原料のボーキサイトといった次世代資源への取り組みを強化
- 循環型社会を見据え、貴金属・リチウムイオン電池・アルミにおける二次資源の活用に取り組む

中期経営戦略2024進捗

Quellaveco銅鉱山の生産開始

Quellaveco銅鉱山はペルー共和国南部に位置する大規模銅鉱山で、約8.7百万トンの埋蔵量および約36年の山命を見込み、高いコスト競争力を有しています。パートナーのAnglo American社と共に開発を進め、2022年に銅精鉱の生産を開始しました。当グループの足元の持分銅生産量は約25万トン／年と本邦最大規模ですが、本鉱山の本格的な立ち上げ後はさらに拡大し、今後は40万トン程度を目指しています。再生可能エネルギーを中心とした電化の進展やEVの普及等、カーボンニュートラル社会の実現に不可欠な資源である銅の確保と安定供給に取り組んでいきます。

Quellaveco銅鉱山（ペルー）

主要な成長ドライバー

グループEX戦略

EX推進に向け、低・脱炭素に不可欠な金属資源への取り組みを強化し、具体的な案件の実行に着手

- 高品位原料炭・鉄鉱石の安定供給
- 電炉拡大に資する直接還元鉄や、水素社会に不可欠な貴金属などの可能性追求
- 電化に不可欠な次世代資源の供給力拡大
- 二次資源への着手

低・脱炭素	電化	循環型社会（二次資源）
原料炭・鉄鉱石・貴金属	銅・アルミ・電池原料	貴金属・リチウムイオン電池・アルミ

収益構造イメージ（トレーディングを除く）